



# 武蔵野

学校だより NO. 3  
平成30年 6月号  
昭島市立武蔵野小学校  
校長 岡部 操

## 武蔵野小学校の芝生レガシー

副校長 川上 卓哉

木々の緑がとても美しく、初夏を思わせる天候が続いた5月でしたが、徐々に梅雨の気配を感じる頃となってきました。武蔵野小学校の校庭は3776㎡の広大な芝生です。4月はちょっと元気なく、枯れてしまっていた部分も多かったのですが、少しずつ回復してきました。

芝と一口にいても、武蔵野小学校では夏芝と冬芝の2種類を組み合わせています。夏芝は短く、地面に這うように生えています。暑い気候を好み、寒い冬になると休眠して枯れた状態になり、春になると再び緑の葉を茂らせます。冬芝は夏芝に比べて葉が長く、背が高く、緑がとても鮮やかです。寒い気候を好み、夏には枯れてしまいます。ですので、毎年秋になると冬芝の種を撒いて育ててやる必要があります。この間、芽が出たばかりの芝を踏んでしまうと芝が育ちません。そこで、年に一度、秋に校庭の立ち入りができなくなる養生期間を設けています。このように2種類の芝を組み合わせることによって一年を通して緑豊かな芝生の校庭を維持しています。

夏前のこの時期に重要になるのが、冬芝を短く刈り込むことです。武蔵野小学校の冬芝は夏前の暑い時期にも元気にどんどん伸びるので、夏芝の生育を邪魔してしまいます。そうすると、猛暑の8月、冬芝が枯れた頃に夏芝が元気のない状態となってしまい、その後の生長が期待できなくなってしまいます。夏芝に元気になってもらうためにも、冬芝を短くし、夏芝が生長しやすくしてやる必要があるのです。また、夏芝を元気にする方法としてエアレーションというものがあります。これは、夏芝の根を切り、土壌に穴をあけて空気を入れる作業のことです。武蔵野小学校では先日、5月25日に園芸業者さんにやっていただきました。

東京都は教育環境の一層の充実のため、都内全公立小中学校の校庭等の芝生化を推進しています。学校に芝生のスペースを設置することで、児童・生徒の日常的な運動量の増加、理科教育・環境教育面での体験的な学びの機会の増加、また、芝生の活用と維持管理を通じて、地域と学校とのきずなが深まり、地域の力を取り込んだ学校の活性化につながることを期待しています。

武蔵野小学校では平成22年度に芝生の校庭を完成させ、今年度で9年目となります。これだけ長期間に渡り、広大な芝生を青々と維持できたのは、芝刈り活動などにご支援・ご協力をいただき、都教委より「芝生の親方」として認証された渡邊PTA会長はじめ、保護者や地域の皆様のおかげです。ありがとうございます。

この素晴らしい芝生を大切に維持し、教育活動や地域活動に大いに活用し、「武蔵野小学校のレガシー」として後々まで残していきたいと考えています。今後ともご支援・ご協力を何卒よろしくお願いいたします。